

海外短信



— モンテネグロ —

コトル市 (モンテネグロ) でのタクシー事情

～ 大同メタル工業㈱ ～



RED TAXI が行き交うコトル市

大同メタル工業㈱の欧州拠点の一つである大同メタルコトル AD から当地でのタクシーの事情についてレポートします。

コトル市？モンテネグロ？どこ？という方が、ほとんどだと思います。

モンテネグロとは、旧ユーゴスラビア共和国、さらにはセルビア・モンテネグロ共和国連邦から分離独立した国です。日本からは遠く、飛行機ではローマ、クロアチア経由で約20時間かけて到着するというところです。小さな国で面積、人口ともに福島県とちょうど同じ大きさです。当社はコトル市に位置しています。ここコトルは旧市街が城壁街で、世界遺産にも登録され、風光明媚なところです。海岸を70Km行けば、最近日本でも非常に有名な、クロアチアのドブロブニックがあります。

世界じゅうどこにもあるタクシー・・・でも、ここは少し違います。

地場のタクシーは、D社、VW社という欧州車のセダンで、個人タクシーが主流でした。観光スポットのタクシー乗り場に行かないと乗れない、乗る前に行き先を告げて、価格交渉する。英語が通じないということは、あたりまえでした。結局言い値で乗ってしまって、非常に高いとか・・・評判は悪いものでした。またこの地域は公共交通機関がとても良いとは言えないところで、外国人の移動手段はタクシーしかないようなところでした。

そこに、ある人物が、小型車で、タクシー会社を始めました。

その数50台以上。赤の5ドアヤリスで統一し、狭い海岸線をキビキビ走る、Uターンも楽々、小型車で高性能な日本車に乗りたいという若者の要望と、仕事があるということで、人気は一気に爆発。

街では5分間で10台は数えられるというほど、赤のヤリスがあふれました。最近はおリスも増えてきています。白いヤリスでもRED TAXI・・・社名とイメージのアンマッチもなんのその。後ろの旧型タクシーがいかにも、「隣の車が小さく見えます・・・」（古いコメントです。） しかも、このRED TAXIはドイツのタクシーと同じ、室内バックミラーにメータが付いているので安心価格、さらに今までのタクシーより30%ぐらい安価としたので、地域のタクシー業界に価格破壊をもたらしました。安心して利用できる。電話をすれば、無線で配車、何処へでも現れます。しかし無線は運転手みんなが聞いているので、1台呼んだら3台来て、ドライバー同士で「先だ、先に来た」の口論も時々起きます。日本の無線配車のノウハウをぜひ導入願いたいところです。

この街から南に50Kmほど行ったところに、同じ様な城壁街でブドバというところがあります。ここはプリウスの牙城で、2007年ごろには、約40台ものプリウスがタクシーで運用されていました。日本におけるECOタクシー事情よりずいぶん早かったと思います。ここもRED TAXIと同じ様な経営方法でした。

しかし、残念なことに、最近はだんだん欧州車の0社に押されてきています。理由を聞けば、「メンテナンスが難しい、思うようにできない。」というのが日本車だそうです。部品の性能がいいから、修理に出すとまがい物にすり替えられて、車がおかしくなるとか、びっくりするような理由を聞かされました。現地にいると日本車が元気に走っている姿を見るのが楽しみで、もっと頑張ってもらいたいものです。



白いヤリスでも RED TAXI?



ブドバを走るプリウスタクシー



旧型タクシーが小さく見える？